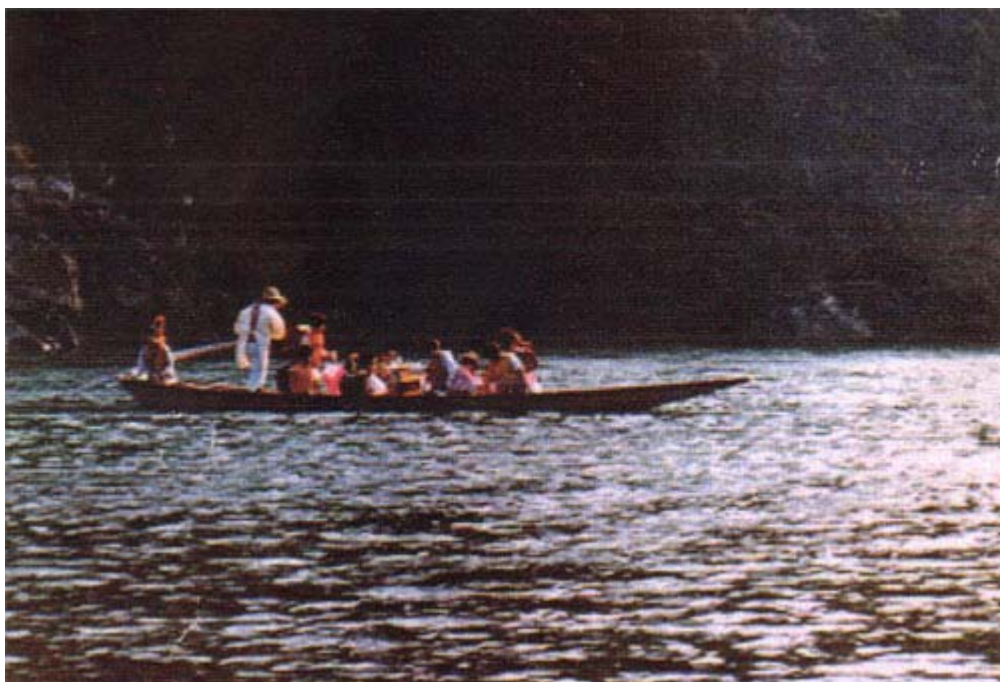


国際ソロプチミスト幡多 会報 No. 3



四 万 十

1996年9月～1997年8月



お題 「姿」 小谷貞広

霧深し児らの姿をたしかめて
朝の渡しのともづな解く

発行 国際ソロプチミスト幡多 広報委員会

ソロプチミスト誓約

私達はソロプチミストとして、ソロプチミズムに忠誠を誓い

**真摯なる友情
偉業達成の喜び
奉仕の尊さ
誠実な職業
国土愛**

等を強調するその理想に忠実に従います。

私たちは、最善を尽くして
これらの理想を促進し、支持し、擁護し、
家庭、社会、実業界において、
より大きな友情を築き、
国家のため、神のために努力致します。

1996年度

国際テーマ ソロプチミスト、女性のグローバル・ボイス。

連盟テーマ 女性のために変化をもたらす。

西リジョンテーマ 手をつなぎ未来を築こう。

表紙 学童の渡し

初代会長小谷忠子様ご主人、貞広様のお歌が皇居正殿の「歌会始め」で歌われました。

全国応募者19,000人の内の10名に選ばれた御快挙でございます。心よりお祝い申し上げます。

『この一年』

会長 大井田 三重



中国は隋の時代『邯鄲一炊の夢』という古諺がありますが、私、宿毛での年長者というだけでおこがましくも会長職をお受けて「アッ」と一年が終わり、反省のみでございます。

只今、私の本来の仕事は、週2回の外来診療と医師会員としての諸事（学校医や予防接種）また、家庭裁判所の調停委員と地方裁判所の司法委員を（19年）致し、6年前より市の教育委員を任命されましたが、ちょうど学校教育の見直しの重大な時期に遭遇し、昨年はこのことが最優先の事態でございました。そのために院内の成人病教室の私の持ち時間はソフトな話になりまた、宿毛市中央身障者および老人デイサービス並びに訪問看護やデイサービスと院内職員の託児所の嘱託医のほとんどは院長に替わってもらっています。で“小さくなっている”と申しながら、国際および日本、四国、高知県の女医会や大学の同窓会や学会に結構出席し生涯教育の点数は充分確保いたしております。こんなにたくさんの草鞋を履き、当然主婦業は失格の私が会長エレクトへのバトンタッチが出来ましたのは、ひとえにセクレタリーやトレジャーさん、その他会員皆様の寛容なお気持ちに支えられたからこととして、感謝を致しております。有難うございました。

振り返りますと、日本の終戦は五十二年前でして、アメリカの占領下で、新しい生活感覚と合理性を身につける事は出来たものの、「温故知新」を忘れ、ただただ前向きに走って世界経済大国を自負するところへ来ましたが、肝心の「心のケア」を忘れておったので、道徳は荒廃し、経済のバブルも破れるべくして破綻をきたしたので。その反省の中で日本のソロプチミストも、1960年代の所得倍増計画に歩調を合わせて急速に発展し、1992年7月には世界98ヶ国、2850クラブ、約95,000人の会員数に対して、日本リジョンは352クラブで12000名余となり、国面積からいって、ソロプチミストの四つの連盟の1/50しかない日本で、会員数がその1/8を占める事になったのは喜ばしい一面、なんだか背伸びをしすぎているのでは・・・と不安を覚えます。二十世紀は、血を流す戦争で世界の地図は塗り替えられ経済戦争となり、二十一世紀に引き継がれていくように思われるのですが・・・。

この厳しい世界の変動の中で国際ソロプチミストは1976年に国連の経済社会理事会の諮問機関として正式にN.G.Oのカテゴリーの一つのポジションに昇格した。それは、私共会員の一人一人が、微力でも国際理解の中で世界有効に貢献することが出来るチャンスを与えられている！この事が大きな魅力で私は入会させていただいたので、おそらく皆様も同じだろうと思っております。但しこの僻陬の地で、三市からな

る広域の幡多ソロプチミストは一堂に会することさえハンディキャップとなりますので、例会の為の会に終わっているのではないかと淋しく思っており、何とかソロプチミズムの核心にふれる会合に成長したいと希望しております。たとえば私が時々申し上げております母国語以外の外国語（英語、中国語）を、小、中学校から出来るだけ早くに（とりあえず副読本の形ででも）みなが母国語以外の言葉を「喋れる」ことが出来るようにする事は、地球に生活し、世界の平和を守る一番の近道だと思います。最近では日本も勿論、科学文明の発達からマルチメディアのインターネットは世界中に張りめぐらされ、英語が国際語に決定されつつある昨今、欧州はフランスを中心とした EC の統一をはかり、また中国、印度は自分達は B.C. 3 0 0 0 年の歴史があるのに 2 0 0 年余のアメリカに振り回される事はないではないかと反論し、核においてもいまだに大国互いにその研究を中止せず、相手を牽制する便法としている様子で・・・
実に、人間の業の深さをもろに出しているのですから、46億年も続いた生命共同体であるこの地球の存続が危ぶまれる重大な時、おの繁栄か！滅亡か！は人間の心と知恵にかかっているのですから、今以上に視野を広げてソロプチミストの縦の組織の中で国民としての横の線と上手に関わって、何か役に立つ事を、具体的に何を！とお互いに試行錯誤して参ろうではありませんか。

最後に若い方々への希望を託して、拙い私のご挨拶とさせていただきます。

一年間のあゆみ

1996年9月～1997年8月



新旧役員交替式直後の記念撮影（あしずり食堂）
兼松前会長より大井田新会長にバトンタッチ
京都に移住される事になり皆に惜しまれ退会されます畑山さんに花束

【9月12日】

第1会西リジョン役員研修会（岡山）に出席

【9月19日】

例会後 林 宿毛市長の卓話

【9月22日】

交通安全四万十の集い「ストップ・ザ 飲酒運転」清水国明氏による講演
及び警察音楽隊安全パレードに参加

【9月29日】

「四万十川 健康ウォーク&セミナー」に参加
S I 幡多 過去3年間の活動記録を英文でアメリカ連盟に送付

【10月12日】

カンティフェアに参加（土佐清水市）

ボストン大学アカペラコーラス

ハッピーキャッツコンサート チケット販売協力と参加



中村市環境保護実践講座に参加（滑床）

【10月15日】

日本西リジョン第2回研修会（岡山市）に 山崎副会長出席

【10月20日】

四万十川100kmマラソン大会運営ボランティア参加（18名）



早朝、暗い中を集合。各部所に就く前に揃いのユニホームで勢揃い

【10月22日】

秋の交通安全キャンペーン参加（2名） 磯の川（国道沿い）

【11月6日～7日】

四万十川フォーラム21に参加（中村市）

「清流保全と地域振興を調和させ川と人間の関わり合いを探る」

日米専門家の記念講演やパネルディスカッション等が行われた。

【11月14日】

国際ソプラチミスト幡多 認証4周年記念行事



記念行事として、自然派ピアニスト 河野康弘氏によるピアノコンサートを開催。

(筒井病院内ケアハウス)

河野氏は、環境保護の祈りをこめて、清流四万十川の自然をテーマにした組曲『四万十川』を自作自演するなど、自然保護を

訴えての独特なコンサートを全国に繰り広げています。

河野氏のダイナミックな演奏、素朴な語り、スタンダードから童話までジャンル年齢を超えた音楽の楽しさ、すばらしさを満喫させて頂きました。



宿毛市長よりお祝いの言葉を頂く

演奏を終えて矢野川会員から花束を受け取られた河野氏

【11月26日】

ソプラチミスト日本財団 平成8年年次大会(宮崎市)大井田会長他 2名出席

【12月1日】

四万十川クリーン一斉清掃に参加(5名)

【12月6日～7日】

土佐清水市産業祭に参加（22名）



恒例の収益活動として今回も各家庭の不用品を持ち寄り販売する。
大変好評で1日目で完売し、2日目は暖かいコーヒーコーナーを設ける。

【12月14日】

幡多観光ガイドボランティア協会発足式に兼松前会長、日高会長エレクト出席。

【12月24日】

クリスマスケーキ販売（収益活動）

歳末助け合い募金

3市図書館に図書費（総額150,000円）寄贈

【1月10日】

保健所・障害者・リハビリ茶会奉仕（土佐清水市福社会館）3名参加

【1月15日】

「風呂敷・袋をもって資源保護運動」パンフレットを新成人に財布

【1月16日】

新年会（中村プリンスホテル）

沢田五十六中村市長御夫妻をお招きしました。市長卓話『幡多地域浮揚に向けて』は、地域振興への新味な政治手腕を感じさせ、大変頼もしく思われました。



市長御夫妻と記念撮影

ラオス地雷教育プログラムに10,000円寄付

ユニセフ（国際連合児童基金）に10,000円寄付

【2月16日】

国際ソロプチミスト阿南20周年記念式典 大井田会長出席

【3月13日】

特別養護老人ホーム 『千寿園』 慰問（宿毛市）

ホームの入居者80名のうち、移動可能な約50名の皆さんがホールに集まれ、大井田会長が挨拶を述べ、記念品代（長椅子）として3万円を贈呈いたしました。

引き続き誕生会に参加させていただき、入居者と親睦を深めました。





30名の寝たきり老人に対しては、参加会員皆で、各部屋を慰問、会長が地元医師ということもあって、なじみぶかく大変喜ばれました。

参加（6名）

【3月20日】

S I 高知例会に大井田会長、大田トレジャー出席

【4月1日】

薬物乱用防止推進協議会に当クラブ入会

【4月4日】

ウィーン・ムジークフェライン弦楽四重奏団 中村公演（中村市立文化センター）
入場券販売協力と参加

【4月10日】

春の交通安全運動街頭指導に参加 6名

身体障害者療養施設 太陽の家 慰問 5名参加（土佐清水市）

花器、はさみ等 生花用道具 30名分贈呈する。



早々、用具を使って生花教室

【4月15日】

四万十川100kmマラソン実行委員会に出席 日高会長エレクト

【4月17日】

大井田会長の卓話（大井田病院副院長）

演題 『熟年婦人の健康』について

アルツハイマーや動脈硬化をおこさないようにするには、食事は美食を避けて、和



食が好ましい。野菜、魚、豆類、乳製品を多くして薄味にする。また健康で長生きするためにも、日常の生活で人と話し、人と交わることが大事である。これは心のケアにつながります、アルツハイマーもおこりにくくする。

【4月24日】

中村市民憲章推進協議会総会出席

【5月15日】

麻薬覚醒剤乱用防止推進協議会に出席 依岡、白木会員

【5月20日～22日】

第11回 日本西リジョン大会 松山市 愛媛県立文化会館 24名出席



早朝6時出発 バスに揺られて
一路松山へ

大会は81クラブ1,500人の
参加者で、盛大に開催されまし
た。

《記念講演》 「21世紀を前に・・・これからの日本と世界」

（平野次郎NHK解説主幹）

アトラクション、晩餐会は楽しい思い出となりました。

晩餐会では橋本総理首相夫人久美子さまを囲んで記念撮影。

素直でお優しいお人柄に、間近に接する事が出来て私達皆は幸せ一杯でした。



(中央白い装いが総理夫人)



翌日はそれぞれの分科会に参加。

他クラブの会員とも交流でき大変有意義でした。

分科会会場前で偶然、高橋さつ子ガバナー一行に出会い記念撮影

(右から3人目が高橋さつ子ガバナー)

【5月30日】

S I 高知プログラム例会 城西館 3名出席

Dr. グレース前田の講演 『第三の人生をアメリカで送る』

(ソロプチミスト デザートコーストリジョン ニューポートハーバークラブ副会長)



前田様はとても若くそして聡明な方でした。「普通は第二の人生なのにどうして第三なのか」という話から、ご経歴、人生歴といろいろ珍しい楽しいお話を聞かせていただきました。彼女が一番関心のあるのが「医療と福祉」と「教育」。遠い外国で講演に教育に執筆活動に幅広くご活躍の様子に思わず拍手を送りたい気持ちにさせられました。

筒井R. セクレタリー

【6月21日】

薬物乱用防止推進協議会パレードに参加 4名 (中村市)

6月26日の薬物乱用防止デーに先だ
って、鼓笛隊や学生さんを先頭に“ダメ
ゼツタイ”を合い言葉にして、シンナー、
麻薬、覚醒剤等の乱用防止に啓発資材を配
布し約2時間街頭を行進しました。



【7月27日】

四万十川一斉清掃に参加 沖、久米、浜田、白木会員

【8月21日】

役員交代会

大井田会長、山崎副会長、他 各役員の皆様一年間大変ご苦労様ございました。
次期日高会長を支えて、次年度も皆で頑張りましょう。



【8月27日】

高知県立特別養護老人ホーム 「白藤園」 慰問 （中村市）

初秋の気持ちの良い朝の空気を吸いながら、園の皆さんとラジオ体操や園内の草引き清掃をし、その後、ホールでS I 幡多よりの輪投げゲームの遊具の贈呈式をおこないました。午前中は元気なご老人の方々30人と輪投げゲームをしていい汗を流しました。



会員寄稿欄

私の感じたこと

熊井 弘子

国際ソロプチミスト幡多が、その産声をあげてから4年の歳月、私自身は何を感じ、何を得て、どのように成長したのかしら……。産みの苦しみを共にした30名余の友と、手探りでささやかなボランティアの真似事と、時折企画した行事に参加し、(これはあまり自慢できるほど参加したわけではなかったけれどせめて例会だけは努力をしたつもり)この程度でいいのかしらと思いつつも、無理をすることはない、細々と長続きしているうちに結構、それらしい格好になってくるものだ、いたって呑気というか自覚がないというか。その中で、ああ良かった!すばらしい!やっぱり行って実感してみるものだと思ったのが5月の西リジョンだった。初めて入場した松山県民ホールも、話にきいていたとおり素晴らしいホールで、そこで開催された西リジョン大会はいろんな意味で私の心に残るものだった。そして来年もきっと参加しよう・・・と今から期待している。せめて年に一度ぐらい外に目を向けて自分の為に研鑽することもいいと思う。さあ、これからの5年目を気負うことなく、細々とソロプチミストの精神に近づく努力をしよう。そしてクラブの友の後ろからぼちぼちついて行こうと思う今日この頃である。

第11回日本西リジョン大会に出席して

稲毛 嘉子

今回初めて、松山市で開催された、西リジョン大会に出席しました。思い返せば、'92年今のころだったと思います。入会説明のお話があり、奉仕団体であることに共感したし、役にたたねばと軽い気持ちでお受けいたしました。が、会員としての十分な活動も出来ず今日に至っております。今大会に参加して、全体像が自分のものとして把握できたことが一歩前進かなと思っています。

小谷様とご一緒させていただきました分科会は、経済的社会的開発奉仕でした。標題は「今時代の求めている地域社会に密着し、奉仕を理解し、促進し、活動しましょう」でした。代表の各クラブの報告があり、すべてにおいて熱心に取り組み、積極的な活動の様子が鮮明に伝わり、感動するばかりでした。その中で最も印象に残ったのは次の事柄です。「行動する女性に開発」(資料より)

定款により、国際ソロプチミストは奉仕団体であり政治団体ではない。と定められています。(中略)

開発とは、全人類の生活、人生の真を向上させるための手段でありこの概念に基づいて、経済的社会的改善を図る過程であるともいえます。(中略)

身近な問題に取り組み活動していくことは、女性の開発をうながし経済発展と社会進歩にもつながります。今期私どもの委員会は、これらの諸問題を考慮し、身近な開発事業として行政に介護問題の全てを、より強力に取り組んでいただく様提唱しましょう。

大変意義深い内容であり、七つのクラブ委員代表者から、このテーマの活動報告がありました。本当に、心打たれる事ばかりでしたが、高齢少子化、この問題は、私達に本当に身近なテーマであり、今後真剣に考えなくてはいけない事だと印象づけられました。大会に参加して「『井の中のかわず』大会をしらず」であったことが恥ずかしく不勉強さにも反省させられました。今までの事が霧の中で消極的だったのですが、プログラムが有る事は、私にとってより理解は深まってよかったのです。これから益々、国際ソロプチミスト会員として、毎月の例会がより充実し、楽しく運営され、次回に期待して出席する会員でありたいと思っています。ありがとうございました。

S I 高知プログラム例会

講演「第三の人生をアメリカで送る」 講師：Grace Maeda-Austin,Ph.D

筒井 翠子

「普通は第二の人生なのにどうして第三なのか」という話からご経歴、人生暦といろんな珍しい、楽しいお話を聞かせていただきました。アメリカ社会の良さは、何をいっても受け入れてくれる社会。そこでは心がオープンに素直になれる。悪いところは主義主張を堂々といわないと事件に巻き込まれたりだまされたりする。自分の意志を言いたいことをはっきりいうこと、それは発表できる人とみなされる。暗黙の了解、謙譲の美德等は通じない。これらに慣れていない日本人は狙われやすい。彼女が一番関心のあるのが「医療と福祉」と「教育」。「日本は若者が楽しむようにできているが高齢者・ハンディキャップのある人に対しては楽しむようには出来ていない。アメリカでは車椅子の人達や半身不随の人達もどんどん出かけて行って楽しんでいる。『教育』の面では、日本の親達は子供を甘やかせ過ぎている。甘やかしはよくない。アメリカの親達は18歳までしか面倒見ず、子供達は生活費、車代等自分で働いて生計を立てる。アメリカは子供に厳しい。ボランティアの活動はとても盛んで数え切れないくらいある。でも労働で活動しお金はださない。日本のお金寄付は世界一。日本人は

おとなしく謙虚な国民性。どんどん話をするように。是非来年ニューヨークで開かれる連盟大会たくさん参加していただいて、4日間の一日を彼女のお気に入りのロスアンジェルスに素敵な場所で夕食をご一緒しましょう！お家にもいらしてください。」というお話で締めくくられました。お世話役の南和子様の「皆様、来年はご一緒にみんなでニューヨークに行きましょう！」で魅力ある話を終わりました。他の方達は夕食会場に移られましたが、私達幡多メンバーは熱い想いを胸に失礼しました。前田様はとてもお若くそして聡明な方でした。遠い外国で講演に、教育に、執筆活動に幅広くご活躍のご様子。おもわず拍手を送りたい気持ちにさせられました。

穂高縦走（熟女は登る）

井上恵子

起点の上高地はまだ朝もやの晴れたばかりで、河童橋付近から見上げた穂高連峰の威容は、とうてい人を寄せつけるようには見えなかった。その頃の残雪を溶かしたかと思えるような梓川の清流はどこまでも透明で冷たく、本当の水の色をしていた。ハガキや雑誌で見たロケーションも実際に目の当たりにすると、その水量の豊富さと、清冽な流れは圧倒される思いがした。河童橋から登山道への道は人の並で、近年はどの山でもこんなふうで、中高年の登山者が多いように思う。私は最初至極元気なのだが、いつものパターンで半日歩くと、段々と足が思うところに運ばなくなってくる。見上げる尾根はどう考えても人が歩ける場所には見えない。水筒の水はとうに飲み干してしまっし、険しい山道はどこまでも続くかに思えた。しかし最初の宿である涸沢小屋の旗(?)が見えかくれして来た頃、登山道に沿って素晴らしい溪流が現れた、回りには一本の木もなくひたすら冷たい流水がしぶきを上げ落ちて行く、幾重にも幾重にも重なった岩々の間を……………。

命が蘇る。これだから山はやめられない。岩清水とはこのことをさして言うのだろう。リ-ダ-は飲んではいけないと言ったが、一口飲んで見る。何と美味しい水だろう。とうとう誘惑に負けて、おもいきり飲んでしまった。さあ、もう一息と歩きはじめておどろいた。上流の方では体を流したり、顔を洗ったり、タオルを洗ったりしているのでないか……………。(見なかったことにしておこう。)

小屋での一泊が又悲惨で一枚の敷きふとんに三人の熟女が寝なければならないとの事、どういう形にでも物理的に不可能な事態に、せめて二枚に五人にしてくれないかとねじ込んで何と体を横たえた。二日目の涸沢岳～穂高小屋は今迄の登山の中で初めて恐怖を覚えた。私達のパーティ-の一時早く登った50才の女性が滑落して意識不明の重体となりヘリで運び降ろされて行くという場面に遭遇した。ヘリにつり下げられたケガ人と、その両側に救助のレンジャ-らしき赤い服が振られているのを見て

しまった為に、あらぬ空想に悩まされ、足がすくんでしまった。改めて夏山とはいえ、山は一步間違えれば命にかかわる所だと肝に命じた。しかし、その日の穂高小屋から見た落日と夕焼け、そして刻を同じくして反対側から登って来た月は、今でも臉に焼きついて離れない。大然の悠久の姿、地球のてっぺんに登り上がったように、自分がこの場所に居る事が信じがたい思いだった。

今、登山者の中には、中高年の、それも女性が大変多い。女性が解き放されて、自由にしたい事を、したい人がする。台所から飛び立った女達はどこまでも登って行く、世の中も不承不承それを認める。本当によい時代が来たと言える。しかし、其れだからこそ、女性だからと甘える事なく責任も担わなければならないと思う。人を寄せ付けないと思えた穂高連峰。這いつくばって縦走し、今、また、畏敬の念を持ってふり仰ぐ。

朗報！ トピックス

副会長 山崎昭代様

家事調停委員として多年にわたり職責を尽くされ、その功績が認められ高松高等裁判所長官表彰を受けられました。誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

理事 立田弥栄子様

ご主人、立田敬二様が長年にわたり、地域の商工業の発展に寄与されたことが認められ、第四等端宝章を受賞されました。誠におめでとうございます。

心よりお祝い申し上げます。

編集後記

1年を顧みまして、行事、活動記録を写真中心に編集しました。紙面の都合上十分な内容が記載出来なかったことや編集技術の未熟なことで、やや単調な内容になったことなど反省しています。

編集にあたり、会員の皆様にご協力頂きましたことをお礼申し上げます。

広報委員長 山下孝子

広報委員 浦岡絹子

〃 久米和子

〃 大田有美子

事務局 〒787-07 宿毛市平田町戸内 1802 筒井病院内 TEL 0880-66-0013
